

ちょっとだけ!!  
フライングディスク  
将来構想会議  
2020

将来構想メモvol.12(2020/12/01)

Flying Disc Times  
presents

<ゲストプロフィール>

**吉田楓**

活動拠点: 関東

所属: 法政大学アサマックス→SeattleRiot→東京マーベリックス

2018U24@パース ウィメン部門日本代表

関わり方: 選手、協会など通じて指導者としても活動

**福岡なぎさ**

活動拠点: カナダ

所属: 大阪体育大学ボーシャーズ→壱→traffic

2016年A代表ウィメン部門

関わり方: 選手

<フライングディスクをこうしていきたい>

- ・初心者向けコンテンツの充実

<困っていること / 課題>

- ・国内外で比較したチームやクラブの在り方

＜考えている解決策＞

・アルティメットに固執しすぎず

「フライングディスク」の特性を楽しんでもらう。

投げる、走る、キャッチするなどの基本動作で成功体験を積んでもらう

→それぞれの動作を切り取った講習も可能

→参加者の楽しい！もっと上手になりたい！アルティメットやってみたい！を意識した構成を考える。

・シーズン制の導入によって時期によって活動する世代を分ける

→海外では学生と社会人のシーズンが異なる。そのためそれぞれの活動期間外は学生は社会人チームで自身のレベルアップやそのスキルを自分のチームに持ち帰る。一方で社会人は学生チームでコーチング等を行ったり、練習に参加している選手をチームのメンバーとして受け入れている。

### <論点の整理>

- ・体験会や講習会では、「参加者の満足度」を優先する

指導者本意の指導にならないこと。そのイベントに参加する目的や講習会の目標をきちんと設定して、確実な成功体験を積んでもらいフライングディスクの競技者、愛好者になってもらう。

- ・異なる世代での交流が必要

シーズン制を導入することでそれぞれの世代の活動期間を明確にし、互いの役割を横断することが出来る。学生は社会人をコーチとして迎えることが出来よりプレーに集中する環境を整えられる。また、社会人チームでも戦力となる若手の発掘が出来る。

# 参加者写真

担当メンバー: 杉田彩歌

